

野

NONOMIYA

宮

廣田 幸稔

Hirota Yukitoshi

狂言 布施無經

山本 東次郎

ごあんない 植木 朝子

作物／鳥居 柴垣



平成18年度文化庁芸術団体重点支援事業

第七回廣田鑑賞会能

平成18年10月1日(日)

午後1時30分始曲



◆料金／【一般】8,000円
【学生】3,000円

会場 金剛能楽堂

TEL.075-441-7222
京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町590-1

◆主催／廣田鑑賞会 ◆指導／宗家 金剛永謹 ◆後援／京都新聞・金剛会

第七回 廣田鑑賞会能

午後一時半始曲 金剛能樂堂

ご挨拶

時下、皆さまにはご清祥のこととお慶び申し上げます。いつも当鑑賞会に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。毎回大曲に挑戦してまいりました。今回挑戦する「野宮」も、私のなかで一つの道標にしてきた曲でもあります。主人公・六条御息所の源氏への恋慕や諦観や迷いや執着が素直に語られ、等身大の彼女の苦しみが伝わってきます。秋の嵯峨野の風情や『源氏物語』を盛り込んだ詞章も美しく、風の音、虫の音に心がひかれます。物語の旧跡を訪ねる風流のわかる能「野宮」の旅僧と、お布施の心配をすどこか憎めない狂言「布施無経」の僧の対比も、また面白いかと思えます。皆さまのご高覧を、心よりお待ち申し上げます。

廣田 幸 稔

◆ 番組

◎午後二時三十分始曲

狂言 布施無経 山本 東次郎

山本 則直

ごあんない 同志社大学文学部助教授

植木 朝子

― 休憩 ― 二十分

廣田 幸 稔

能 野宮 福王和幸

安福 光雄
久田 瞬一郎
森田 保美

間 山本東次郎

廣田 泰三
金剛 永 謹
豊嶋 幸洋

和田 次夫
今井 克 紀
廣田 泰 能
鳥崎 暢久
掛川 昭二
今井 清 隆
松野 恭 憲
種田 道一

◎午後四時半頃終了予定
都合により内容を一部変更する場合がございます。

狂言 「布施無経」

寺の僧は毎月ある檀家を廻つてはお勤めをし、決まったお布施を貰つていた。今日もお布施をあてにしてお経をあげたものの、檀家からはいつかにお布施が出る気配がない。言い出したくても言い出せず、僧はお布施を連想させるような教化や世間話をしては、檀家から帰つたと思つてまた戻つてを繰り返す。とうとう、鼠が鳥目(銭の異称)十疋(銭の単位)が通るくらいの穴をあけた自分の袈裟を、落としてしまったとウソをついて、ようやく檀家に思い出させるのだが…。

僧としての建前と、布施を諦めきれない本音が何とも普遍的な人間らしさを感じる狂言の名曲である。

能 「野宮」

晩秋のある日、都の社寺名所を訪ね歩いた旅の僧が、嵯峨野の旧跡を訪れる。そこで、小枝を鳥居に供える里女と出会う。僧が里女にこの旧跡の謂れを尋ねると、まさに今日、長月七日は、光源氏が野宮にいる六条御息所を訪ねた日なのだと言ひ始め、自分は御息所だと告げて姿を消す。

僧が源氏と御息所の物語に思いを馳せていると、御息所の霊が現れ、源氏との輝くような恋の日々や、賀茂の祭りの車争いで受けた屈辱を語る。さらに、自分の身の衰えや恋の苦しさからの諦めなどを秋の風情や物語の詞章を交えながら訴える。潔斎の日々のなかにも未だ迷いから抜けきれないまま、悟りを求めて火宅の門を出ようとするが…。

源氏の車が近づく音、松虫の鳴く声など御息所の心を、音の描写が効果的に演出している。出典は『源氏物語』。



廣田 幸 稔 (ひろた ゆきと)

金剛流シテ方 先代および当代宗家・
金剛永謹と父陸二に師事
重要無形文化財保持 金剛会理事
京都市芸術新人賞 文化庁芸術祭新人賞

※当日解説付番組あります。

第8回 廣田鑑賞会能	平成十九年五月十三日(日)	能「熊野 三段之舞」廣田幸稔	解説 村瀬和子
第9回 廣田鑑賞会能	平成十九年十月 七日(日)	能「綾鼓」廣田幸稔 ほか狂言	解説
菊之会	平成十八年十二月十日(日)	能「井筒」廣田泰能	

FAXにも、ご予約を承ります。 廣田鑑賞会 075-722-9123までご送信ください。 切符は当日受付にて、お引渡しとなります。

《第7回 廣田鑑賞会能 申し込み》

■ お名前

■ お電話・FAX

■ ご住所

■ 一般券 (8,000円) 枚 ■ 学生券 (3,000円) 枚

第7回のみ 会員入会(第7回、第8回 年2回公演分) 会員 年会費 15,000円

※ 内にチェックして下さい

チケット取扱所

●ローソンチケット(Lコード 57901) ●金剛能樂堂075-441-7222 ●京都新聞社文化センター ●檜書店 ●京都会館プレイガイド 075-771-6056 ●廣田鑑賞会 075-722-9123